

## 岐阜県立各務原高等学校

学 校 長 高 谷 信 吾

学 校 住 所 各 務 原 市 蘇 原 新 生 町 2 - 6 3 電 話 058-383-1015

---

1 会議の名称 岐阜県立各務原高等学校評議員会（第2回）

2 会議の構成 委 員

安積 武司 地域住民代表（坂井町自治会長）  
鈴木 英巳 関係機関等代表（各務原市立中央中学校長）  
大野 正博 学識経験者  
（朝日大学大学院法学研究科長）  
高橋 昌嗣 本校PTA顧問（元PTA会長）  
福田 尚巳 関係機関等代表  
（各務原市市長公室広報課(シティプロモーション担当)）  
（50音順 敬称略）

学校側 棚橋 雄二 PTA 会長  
高谷 信吾 校長  
山本 和志 教頭  
中川 弘之 事務長  
立川 茂 教務主任  
浅見 和人 生徒指導主事  
関谷十糸子 進路指導主事

3 会議の目的 岐阜県立各務原高等学校評議員会設置要綱に基づき、本校の教育方針と学校課題を説明し、本校の教育への提言を受ける。

4 会議の開催 平成31年1月23日（水）10:00～12:00  
各務原高等学校教室、校長室  
委員4人（1名欠席）とPTA会長、学校側6人が出席

5 会議の概要 （1）学校概況説明と保護者・生徒へのアンケート結果説明  
（2）各分掌による自己評価  
（3）学校関係者による評価

## 本校の教育活動に対するご感想・ご提言

### (1) 保護者・生徒へのアンケート結果について

- ・アンケートは、結果を生かすというサイクルが大切であり、授業改善に使われている点をぜひ続けてほしい。また、生徒アンケートの学習部分で「わからない」を選んだ生徒の原因を掘んで、対応できるとよい。
- ・学習評価について、どのように評価するかを生徒にしっかり伝えて理解させることが必要であり、例えば、授業を終えて「どんな取り組み内容であったか。」「グループエンカウンターをやってどうだったか。」など、生徒がやったことに対して確認し、評価できるとよい。
- ・アンケート結果の分析で、昨年度よりパーセントが下がった項目について、その原因の調査を行うことも大切である。
- ・分かりやすい授業のため、内容の質を下げ理解をさせるのかではなく、質を下げずにどのように工夫し理解させるのが課題である。
- ・家庭との連携面の「連絡文書等は、保護者に届けている」の項目で、保護者と生徒の結果に開きがある。重要な文書は登録の多い保護者メールを利用して合理的に進めるとよい。
- ・アンケートの選択肢で、「わからない」を無くし、その代わり自由記述部分を多くして声を拾う方法もある。

### (2) 各分掌の取り組みについて

#### ① 教務部

- ・生徒の学力の向上を目指し、授業内容の難易度を上げると差が生まれ、その差に応じた授業を展開が必要になる。実態に合わせた工夫された授業展開が大切である。
- ・中学校でも「深い学び」を目指した指導について模索中である。前回の授業参観では、生徒たちがグループで話し合い、生徒同士で説明する場面があり、学びが深まる様子が見られた。そういった力をぜひ伸ばしてほしい。
- ・学校での情報の管理に注意している点は重要なので今後も続けてほしい。
- ・授業評価アンケートでスマホアプリを使っている点で、使い方や情報モラルについての研修が大切で、講演会や集会などで取り上げる機会が増えるとよい。
- ・情報管理の点で2重チェックなどの取り組みが行われる中で、教員側の意識や取り組み方をより向上させる必要がある。
- ・昨年末、電子黒板の導入について聞いたが、どのように授業に取り入れて、生かしていくのか今後の授業形態への工夫が必要になると思うので、先生方の研修が大切である。  
＜学校側＞来年度から普通教室に電子黒板が入り、タブレットが複数人に1台入る予定であるが、授業形態を考え、タブレットは購入の形でも1人1台持てると良いと考えている。教員も扱い方や電子黒板にあった板書の工夫など研修を進めたい。

#### ② 生徒指導部、教育相談部

- ・一部生徒の問題行動は一過性のものなのか、そうでない場合は原因をしっかりと把握して対応する必要がある。早期の段階で、個々の生徒の問題なのか、学校としての問題なのか見極めるのが重要である。
- ・身だしなみ指導について、時代とともに変化している点で、法教育(Law-Related Education)の視点も取り入れ、生徒を巻き込んで自分たちでも考えていくなど、主体的に考えさせる良い教育の機会であると捉えて積極的に行ってほしい。
- ・教育相談部のエンカウンター取り組みは新入生にとってとても良いと思う。
- ・進級などが絡んでくる不登校や、休学者などの状況を聞かせてほしい。中学での不登校も、大変深刻な問題である。  
 <学校側>不登校生徒の中には、各務原高校に来たことをきっかけに変わろうとしている生徒がいたり、自己の進路を考え通信制へ方向転換する生徒など、個々にあった対応を考える必要があり、学習面の補充なども考慮して行っている。
- ・登校時の生徒の自転車の安全性を考え、送迎時の車の校内乗り入れを禁止にして、安全性が高まりよかった。今後も続けてほしい。

<学校側>アルバイトについて、入学時からすぐにアルバイトを考えるのではなく、大切な時間をまずは自分たちの学習や学校のことで使ってほしい。アルバイトは悪いことではないが、「皆がやっているから」という風潮を止めて、自己の学習に真摯に向き合うことが大切であることを意識してほしい。ただ、経済的な理由で親が相談に来る場合もあるため、配慮し対応をしている。

### ③進路指導部・特別活動部

- ・各務原市は産業に強い土地柄であるが、人材不足である。進学後 U ターンして帰ってきて、地元で職についてほしい。1年生の企業見学会の取り組みは、地域と繋がる活動となったので、今後も続けてほしい。
- ・1年生の企業見学の取り組みや、自衛官、警察官などの公務員への就職も学校としてアピールできるよい。
- ・入試が変化してきている。ペーパーに対する力だけでなく、推薦入試の際のプレゼンなど、様々な課題・入試方法に対応できる力をつけられる進路指導をお願いしたい。
- ・ボランティア活動など生徒会の地域と繋がった活動が良かった。
- ・バトミントン同好会の立ち上げについては、生徒が自分たちで考え、動いて始まった活動でその取り組み方が素晴らしと思う。主体性が見られる取り組みである。
- ・行事を含め、色々なことに一つにまとまるのがこの学校の良い特色である。今後も、地域に愛される学校として活躍を期待したい。

### ④保健厚生部・渉外部

- ・今年のインフルエンザの対応で、感染拡大防止に努めた対応など、学校としてリスクアセスメントができています。今後も継続してほしい。
- ・防災への取り組みは効果的なものようで良い。夏の暑さ対策や、インフルエンザの対応など今後も、その時々に対応を検討していくことが必要である。

### ⑤理数科・英語科

- ・科の特徴を大切にし、それを生かして普通科の生徒たちと交流してみるのもよい。
- ・個性を大切にし、少子化に対応した教育という点で、普通科の生徒それぞれに、理数科や英語科の教育を生かした取り組みができるとよい。
- ・理数科、英語科が存在している学校の強みとして、教員の指導力により、理科や数学、英語が分かりやすいという授業に繋がっていくとよい。
- ・理数科の卒業生の中には、海外でグローバルな活躍をしている者もいる。そういった生徒を育てる専門教育を、普通科でも取り入れ、繋げてほしい。

### (3) 校則の見直しについて

- ・社会でのマナーなどについて、企業の方の講演などで知ることがあるとよい。会社でルールがあることなど、必要で作られていることを知ることができ、その大切さを学ぶことができる。
- ・生徒たちがルール作りに参加し、その中でメリット、デメリットを教える。学校の校風・特色、地域の状況や関わり、**LGBTI** への理解等、時代の変化に応じ、様々な観点から考えていくことが大切である。
- ・服装やマナーについて、企業の人事担当の方から話を聞いたり、OB・OGから話を聞く機会を作って学ばせることも必要である。その上で、どのように考え、自分に取り入れていくのか、自己決定することも大切である。
- ・生徒が主体的に校則決めに関わることが大切であり、校則の意味を理解し、マナーを考えさせることができる。
- ・3年前、学校でのスマホの使い方について、生徒と対話の機会があり、意味のある会となった。生徒との対話の機会を作りながら決めていけるとよい。
- ・校則について生徒がワークショップ形式で話し合い、先生や大人の意見を理解した上で、自分たちの校則を考えることも一つの方法である。

### まとめ

今回の貴重なご意見、アドバイスを取り入れた学校づくりをしていきたい。教員が今までのことを大切にしながらも、柔軟に対応するキャパを広げていくことで、これからの学校づくりが変化してくる。生徒が社会に出たときを見据えて、生徒の力をどう伸ばしていくかを改めて考えていきたい。来年度に向けて、今後ともよろしくお願い致します。